

想像が創造する世界

第 16 期 OG 土谷 鈴

店に入ると、何だか懐かしい「戻ってきたなあ...」という感じがする。そこには、フレッシュさと元気溢れる第 18 期生と、先輩らしい大人びた表情をした 17 期生、ほろ酔い状態の岩ちゃん、涼平、やなー、そしてそんなみんなを温かく見守る小野先生の姿がある。岩ちゃんと涼平は相変わらず議論の余地があるのか分からない内容の真偽について語り合っているし、やなーは例の如く斜め上を見ながら、「いやあ、(仕事) ヤーバい...」を連発している。それでもやなーがバリバリビジネスマン色に染まっているように見えるのは、スーツが身に馴染みすぎているせいだろうか...。そんな状況をニヤつきながら見ていると、岩ちゃんがビールを頼んでくれて、みんなと乾杯！ ビールはあまり好きではなかったが、仕事終わりに飲むと心なしか美味しく感じる。そして、18 期が楽しそう話してくれるゼミの近況を聞いているうちに、はるえとはるかが一緒に到着。はるえは社会人 1 年目とは思えないくらいバリキャリ感を醸し出しているし、はるかは相変わらず見ているだけで幸せになるくらい楽しそう。久々に 16 期が集まってきて、テンションが上がってお酒が進んでしまう。ああ、もう酔っ払ってしまった...。そうこうしていると、会社の人たちとの 1 次会を終えたりさが到着。さすが、「もう先輩じゃん？」というようなオーラが出ている。

そうこうして、23 時を越えようとしている時、広島から新幹線で来たけいとが滑り込み到着。どうやら新幹線の中で 1 人で飲んでいたらしく、すでに酔っ払っている。「え？ 16 期は全員 2 次会参加でしょ？」と言いながら、「今から 9 人 (小野先生+16 期) 入れます？」と、2 次会のお店を勝手に押さえている。久々に全員集まったことだし、みんなで楽しく 2 次会をしていると夜も更けて...

...と、ここまでは想像上の話。「こんな世の中じゃなければ、こんな社会人 1 年目だったはずなのに！」という想像上の世界の話だ。しかし、ここまで鮮明に 2020 年度の小野ゼミのことを想像できるのは、それだけ小野ゼミと濃い時間を過ごしてきたからこそのことだと、改めて深い絆に気づかされる。

2020 年は、コロナの影響で、“会いたくても会えない”，そんなことがたくさんあった年だった。しかし、そんな状況だからこそ、会いたい人たちのことを想像する機会が今までになく多い年でもあった。「小野先生は元気かな」「18 期はどんな雰囲気の人たちなのかな」「17 期はどんな先輩になっているのかな」「16 期はどんな社会人 (またはニート) 1 年目を過ごしているのかな」「まだ会ったことのない会社の人たちはどんな人なのかな、実は首から下はすごく太っていたりするのかな」そんなことを常に想像していた。そして、想像の力は想像以上に強く、冒頭のように深い絆に気づかせてくれたり、後述するエピソードのように、深い絆を新たに生み出してくれた。

そのエピソードは、新人社員研修でのこと。私が就職した会社には、先輩社員 2 人を含めた 9 人のメン

バーで構成される、新入社員研修班というものが存在する。そのメンバーは、本来であれば毎日一緒に研修をし、飲み会をし、研修中のほとんどの時間を共に過ごす仲間のはずだった。しかし、今年はメンバーに会うことは許されず、毎日リモート上でしか会うことができなかった。そんなメンバーで迎えた研修最終日、先輩社員の計らいで、「卒班式」という名の会がリモート上で開催された。みんなで君が代を歌い、「僕たち、私たちは、本日をもちまして研修班を卒業します。全員：卒業します！」という卒業式恒例のヤツを行い、最後は1人1人が班のメンバーへの想いを述べた。メンバーへの想いを述べているうちに、毎日のようにお互いのことを想像して、夢にまでお互いが出てきて、こんな状況でありながら、想像上の世界で毎日会って、メンバーの間に深い絆が生まれていることに感動し、全員でPC画面の前で大号泣した。メンバーに実際に会えないことはもちろん悔しかったが、想像が創造する世界が持つ力は、その悔しさを打ち消すくらい大きな力だった。

さて、ここで未来のことを想像してみる。2021年度中には、小野ゼミの仲間と一緒にたくさん飲みに行き、会社の先輩たちとゴルフに行き、仕事で担当している放送局の方々とたくさん旅行に行き、色々な人たちと一緒に美味しいご飯を食べに行き...。今日も私の想像が創造する世界は、とどまるどころを知らない。



ずっと会いたかった研修班のメンバーと初めて会えた日（著者は左から3番目）